

# 草地更新で餌不足にならないために



草地の植生改善や雑草防除は目標ではなく、自給飼料の品質と生産量を向上し、購入飼料を減らすための方法の一つです。草地の植生改善には、草地更新を用いる場合が多いですが、そのことで自給粗飼料の不足（餌不足）を生じてはいけません。

## 1. 植生改善（草地更新）の考え方

植生調査を行った結果、イメージ以上に雑草に優占されていたりすると、慌てて植生の悪い草地から草地更新してしまう場合があります。しかし、無計画に草地更新を行うと、更新した当年や翌年の1番草の牧草収量が少なくなることから、自給粗飼料の不足（餌不足）を招くおそれがあります。植生改善の目的は、自給飼料の質と量の向上です。

まず、飼料用とうもろこし等の収量と貯蔵量を増やしたり、簡易更新等を用いて牧草の収量を確保してから、抜本的な草地更新に取り組むことをお勧めします。

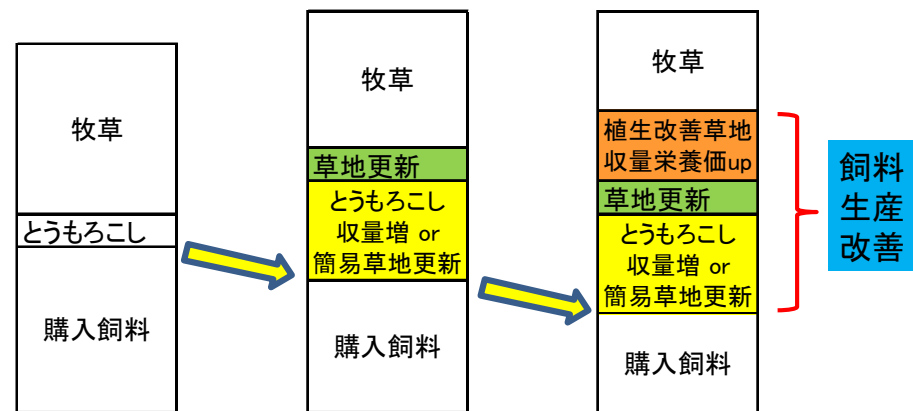


図1 植生改善の考え方イメージ

## 2. ほ場台帳兼、作付け計画表を作成しませんか？

左表のように、ほ場をどのように利用するか、中期的な計画の作成をお勧めします。

牧草（緑）と飼料用とうもろこし（黄色）の面積に、概ねの収量を乗じて合計すると、毎年（将来）の粗飼料の生産量をシミュレーションできます。

草地更新ほ場（赤色）の牧草収量を、0かまたは少ない収量で試算すると、極端な餌不足を生じずに、中期的な草地更新の計画を立てることができます。

圃場No.	面積 (ha)	更新後 5年以上	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	雑草・裸地率 (H24調査結果)
			(H.20)	(H.21)	(H.22)	(H.23)	(H.24)	(H.25)	(H.26)	(H.27)	(H.28)	(H.29)	(H.30)	(H.31)	(H.32)	(H.33)	
1	1.9		D	●G	G	G	G										35.0
2	1.2		D	●G	G	G	G										50.0
3	2.3		G		G		●G	G									
4	1.6		G				G	●G									55.0
5	0.7		G				G	G	●G								15.0
6	0.7		D		D		●G	G									
7	1.0		●G	G			G	G									25.0
8	9.7		D	D		●G	G	G									10.0
9	2.3		G				G	G	●G								45.0
10	1.2		G			G	放牧	放牧	●G								
11	1.7		D				D	D									
12	4.6		D		D	G	G	G									10.0
13	7.5		G	G	D		D	D									
14	8.7			G			G	G				●G					45.0
15	4.4		D				D	D									
16	0.4		G				G	G									40.0
17	1.3		G			G	放牧	放牧	放牧	放牧							55.0
牧草畑			76.9	91.5	79.2	86.5	81.1	84.1	79.6	78.7	79.0	78.8	77.9	77.2	76.8	78.0	
コーン畑			28.2	25.1	28.1	27.5	30.4	30.4	36.1	37.0	38.0	38.2	39.1	39.8	40.2	39.0	
その他			9.1	0.4	9.7	3.0	5.5	2.5	1.3	1.3							
総面積(ha)			0.0	114.2	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	117.0	0

## 3. 貯蔵飼料を増やす方法① 「飼料用とうもろこしへの追肥!？」

施肥カルチを所有している農家さんが減ったこともあり、ほとんどの農家さんが、飼料用とうもろこしの施肥を春の「基肥一発」で栽培しています。しかし、北海道施肥ガイド 2010（施肥標準）をよく読むと、「出芽時に濃度障害のおそれのあるときは、基肥Nは10 kg/10a（根釧・十勝は8 kg/10a）を限度とし、残りを7葉期（根釧では4葉期）までに分施する。」となっています。

4葉期～7葉期に、葉面が乾いている時に、ブロードキャストで、硫酸または尿素を窒素4kg/10a程度追肥すると大幅に増収します。散布後一週間程度、葉が赤くやける症状が出ますが、その後の生育・収量等には影響がありません。

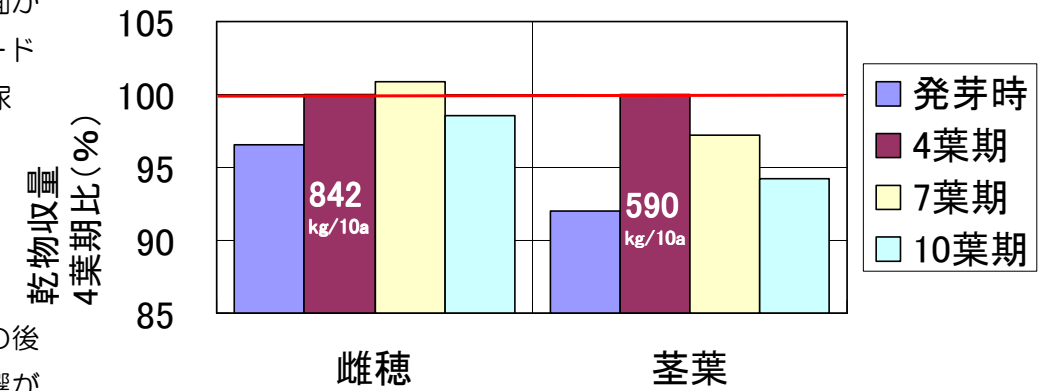


図2 飼料用とうもろこし栽培における追肥の時期と増収効果

## 4. 貯蔵飼料を増やす方法② 「簡易更新を用いた牧草収量の確保」

左の写真はハーモニーでギシギシの防除を行った様子ですが、ギシギシが枯死した後は下の写真のように、牧草の被度が半分程度でした。そのまま放置すると、実生のギシギシがびっしり再生し、牧草の収量も減ったままです。

そこで、左下写真のように、裸地に簡易更新（作溝法）で牧草を播種することにより、牧草の収量を確保（増加）することができます。



写真 ギシギシの防除とその後の簡易更新（作溝法）による牧草植生の回復

